

海なし県で楽しむウオーターアクティビティ

群馬県は全国に八つしかない「海なし県」の一つ。海はなくても利根川の水源地を抱えているとあって、県北部を中心に川や湖で楽しむウオーターアクティビティが盛んだ。

激流を大型ゴムボートで下るラフティング、身一つで渓谷を下るキャニオニング、専用のボードに立ちパドルを漕いで進むSUP（サップ）、誰でもゆったり楽しめるレイクカヌーなどなど。勝手に評価させてもらえば、興奮度が高いのはラフティングとキャニオニング、難易度が高いのはSUP、気軽さならレイクカヌーだろうか。

大量の雪解け水が流れ込む春の利根川でのラフティングはスリル満点。大波に乗り上げて跳ね上がり、川の中に投げ出されることも。とにかくエキサイティングだ。キャニオニングも負けてはいない。天然のウオーターライダー感覚で一枚岩を滑り降りたり、滝つぼに飛び込んだり。場所によってはロープで下降することもある。「難易度が高い」と評価したSUPだが、ボードに立って漕ぐのが難しいだけ。バランスを崩して湖に転がり落ちるのも、楽しさの一つと割り切ることが肝心だ。

筆者の一押しはレイクカヌー。初めてでも子どもでもお年寄りでも楽しめるのと、ツアーの自由度が高いのが理由だ。新緑と残雪のコントラストが美しい春に始まり、湖に流れ込む沢での水遊びもできる夏、錦秋の山々を間近で眺められる秋までシーズンは長い。主なフィールドはみなかみ町にある五つのダム湖や中之条町の四万湖、奥四万湖。ツアー会社によっては県外遠征することもある。一日中めいっぱい漕ぎ、夜はキャンプで盛り上がり、翌日は早朝ツアーといった楽しみ方ができる。親しくなったガイドに「〇〇湖に行きたい」「キャンプもしたい」などと相談すれば、それを実現してくれる自由さがいい。

4月下旬にはそれぞれのアクティビティが動き出す。いずれも少人数が基本なので「三密」とは無縁。安心して自然と戯れてほしい。

上毛新聞社 論説室論説委員 小林聡



晩秋の奥利根湖。湖上から紅葉に染まる山々を眺める



ツアーの途中のコーヒープレイク。静かな浜でのんびり